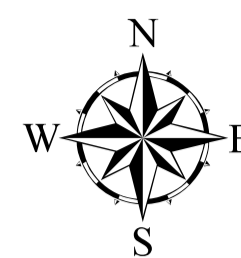


# 阪南港・泉州港 津波防災情報図(進入図)

計算条件：最高水面  
隆起量：平均 -13cm(-15cm ~ -11cm)

・津波は、震源の位置、規模、細かな地形の影響などにより、試算と異なることがあり、より大きな津波が来る可能性もある。



1:30,000

座標系：メルカトル図法  
測地系：世界測地系(WGS-84)

### 凡例

— 水位上昇(+10cm)となる等時線[分]

○ 経時変化図出力点

### 最大水位上昇

■ 150~最大200cm

■ 50~100cm

■ 50cm未満

→ 進入時最大流 [knot]

→ 6 knot

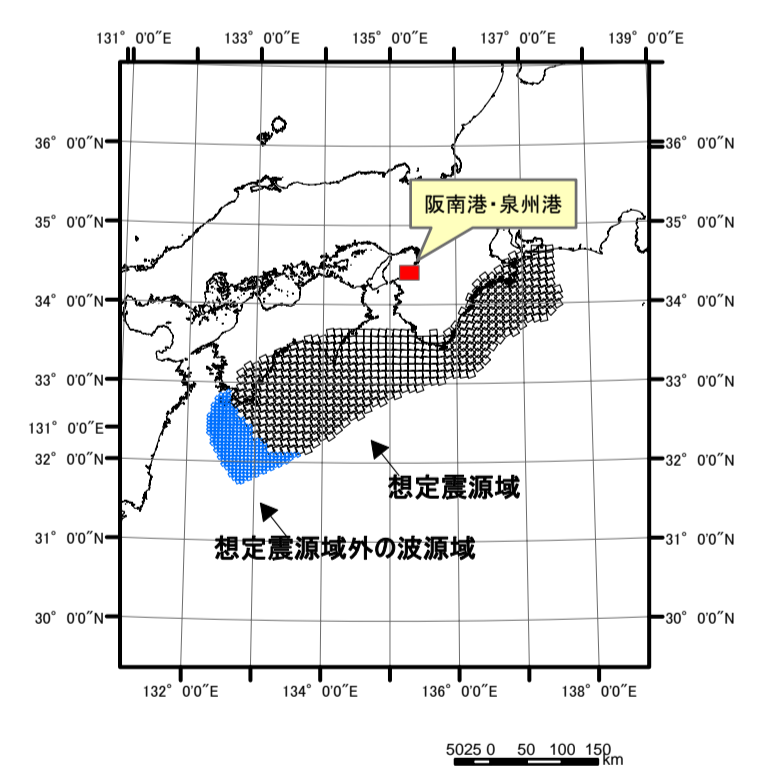
→ 4 knot

→ 2 knot

・津波の到達時間は、水位が10cm変動した時点を算出している。

・海岸構造物は、地震・津波の影響を受けないものとして計算している。

### 想定震源域と波源域の位置

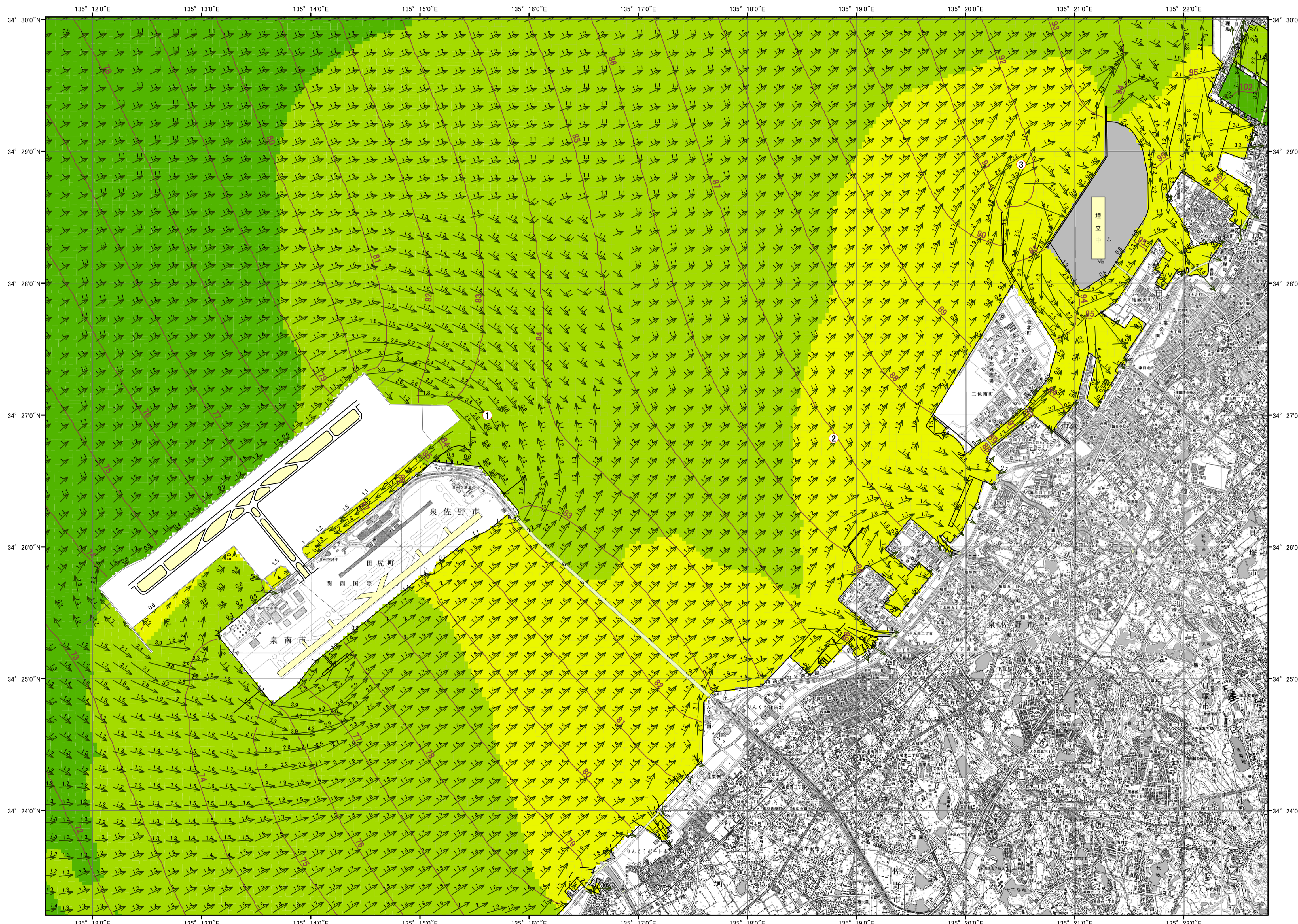


マクロ的に見たパラメータ	南海地震	東南海地震
断層面積 S (km <sup>2</sup> )	約 36,500	約 14,500
地震モーメント Mo (N・m)	8.34 × 10 <sup>21</sup>	2.15 × 10 <sup>21</sup>
平均すべり量 D (m)	5.70	3.63
モーメントマグニチュード Mw	8.55	8.15

・本図は、中央防災会議「東南海・南海地震等に関する専門調査会」で公表された断層モデル及び断層パラメータを使用した。

0 250 500 1,000 1,500 2,000 m

作成機関：海上保安庁  
作成年月：平成 20年 3月 (初版)



・試算に使用したデータは、海上保安庁海洋情報部のJ-EGG500、J-BIRD、沿岸の海の基本図地形データ、及び海図を作成する際の基礎データを使用した。  
 ・この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平19総保、第969号)  
 ・この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図50mメッシュ(標高)を使用したものである。(承認番号 平19総保、第522号)

経時変化図 図上の位置における津波の挙動を時系列で示す。

